

おおくに 大国のまほらま

「まほらま」という古語は、「豊饒(ほうじょう)」を意味する。大田市仁摩町の大部分から、大屋町に跨がる大国は、まさしく「まほらま」の地であって、中世にあっても、石清水八幡宮領「大国保」、益田氏領「大国荘」として、古文書に明記されている(角川日本地名大辞典32「島根県」一六一頁)。しかし、何より大国の名を世に高らしめるものは、昨今公開されはじめた、「庵寺(あんでら)古

大屋一大森間の古道

⑧ 往還を行く

三井 淳

墳群」からの出土品である。このころ石見部で最大のものという(県埋蔵文化財調査センター資料)。

庵寺は、大

部の呼び名で、山陰道建設に伴い、平成二十年から数次調査された。その結果、前・中期の古墳が二十五基に及ぶという、大規模なものであることが判明した

のである。これは、現在のところ石見部で最大のものという(県埋蔵文化財調査センター資料)。

現在の仁万湾は、古代にあつては想像を遙かに超える大きさを誇り、大屋の尾波辺りに及んでいた。大国を貫く川を「潮川(うしおがわ)」というが、この名こそが、かつて「大国入海」が存在していたことを証している。

部の中わけても出土品なのは、前漢の天漢(てんかん)年代(BC100~BC97)の様式とされる、銅鏡の八禽鏡(はつきんきよう)写真)である。

出土品中わけても出土品なのは、前漢の天漢(てんかん)年代(BC100~BC97)の様式とされる、銅鏡の八禽鏡(はつきんきよう)写真)である。

人有り。分じて百余国を為す。歳時を以て来たりて献見すと云う。紀元前一世紀頃になると、倭人が漢の楽浪郡(らくろうぐん。ピョニヤン辺り)にまで、

現在仁万湾は、古代にあつては想像を遙かに超える大きさを誇り、大屋の尾波辺りに及んでいた。大国を貫く川を「潮川(うしおがわ)」というが、この名こそが、かつて「大国入海」が存在していたことを証している。



庵寺出土の八禽鏡

今後庵寺から、いかなる逸品が飛び出るや、期待はいよいよ高まる。(五十猛歴史研究会 会員 みつい・あつし)

日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おす木曜日」は内藤博之さんの「カウテ